

国立国語研究所
影山班プロジェクト「日本語レキシコン」

動詞＋動詞型複合動詞・複雑動詞の研究文献一覧
(動詞連用形接続の複合動詞、テ形接続の複雑述語を含む)

**Bibliography on
Compound Verbs and Complex Predicates in Japanese**

最新版ダウンロード http://www.ninjal.ac.jp/lexicon/level1/post_2/index.html

作成協力者

于 康 (関西学院大学), 影山太郎 (国立国語研究所), 松本曜 (神戸大学),
岸本秀樹 (神戸大学), 青木博史 (九州大学), 塚本秀樹 (愛媛大学), 由本陽子
(大阪大学)

1600年代

1604–1608 Rodriguez, Ioão *Arte da Lingoa de Iapam*. Nagasaki: Nagasakigakurin. (『日本大文典』土井忠生訳註 三省堂 1955年) 複合動詞の核支配に関する記述がある。

1930年代

1935 金田一京助 「アイヌ動詞の第三類—複合動詞の人稱形に就て」 『民族学研究 1(3)』日本文化人類学会

1939 Parker, Charles Kenneth *A Dictionary of Japanese Compound Verbs*. Tokyo: Maruzen Co. Ltd. [本書の意図は、動詞＋動詞型の複合動詞を分析することによってアジア諸言語における日本語の系統的な位置づけを述べることにあるが、それは別にしても、連用形接続およびテ形接続の複合動詞を(関西方言の尊敬語「-はる」も含め)ほぼ網羅的にリストし、英語で説明している。]

1950年代

1950 白石大二 『日本語のイディオム』 三省堂

1951 北山鶏太 『源氏物語の語法』 刀江書院

1952 吉沢典男 「複合動詞について」 『日本文学論究』10、国学院大学国語国文学会

1953 金田一春彦 「国語アクセント史の研究が何に役立つか」 『金田一博士古稀記念言語民俗論叢』329–354. 三省堂 [アクセントや助詞介入を根拠に上代語には複合動詞が存在しなかったと主張]

- 1953 武部良明 「複合動詞における補助動詞的要素について」 『金田一博士古稀記念言語民族論叢』461-476. 三省堂
- 1955 金田一春彦 「古代アクセントから近代アクセントへ」 『国語学』22
- 1957 橋本四郎 「副詞的機能をもつ動詞重複形」 『国語学』30
- 1957 秋永一枝 「アクセント推移の要因について」 『国語学』31
- 1958 関 一雄 「中古中世のいわゆる複合動詞について—源氏・栄花・宇治拾遺・平家の四作品における」 『国語学』32
- 1959 関 一雄 「複合動詞変遷上の一問題—「他動詞+出づ」から「他動詞+出だす」へ」 『言語と文芸』1(4)、国文学言語と文芸の会

1960年

- 1960 鈴木重幸 「首里方言の動詞のいいきりの形」 『国語学』41
- 1960 関 一雄 「いわゆる複合動詞の変遷」 『国語と国文学』37(2)、東京大学国語国文学会
- 1960 桜井茂治 「平安・院政時代における「複合動詞」—関一雄氏の論文を読んで—」 『国語と国文学』37(7)
- 1960 森 昇一 「敬語の複合動詞--聞き驚き歎き給ふ」 『國學院雑誌』61(7)、國學院大學総合企画部
- 1961 西尾寅弥 「動詞連用形の名詞化に関する一考察」 『国語学』43
- 1961 佐久間鼎 「動作を表現する構文とその構造図式」 『国語学』47
- 1962 山崎良幸 「文の構造—特に助動詞の機能に関連して—」 『国語学』48
- 1962 進藤咲子 「サ変複合動詞の語彙からみた江戸語と東京語」 『国語学』48
- 1963 国田百合子 「尊敬語と用言との関係—平安朝文献を中心として—」 『国語学』52
- 1963 竹内美智子 「『和泉式部日記』の語彙に関する一考察」 『国語学』53
- 1963 飛田良文 「和英語林集成におけるサ変複合動詞の上一段化」 『国語学研究』3
- 1963 関 一雄 「中古の複合動詞の名詞化をめぐって」 『言語と文芸』5(6)、国文学言語と文芸の会
- 1963 築島 裕 「ツンザクとヒツサグとの語源について」 『国語学』54
- 1964 関 一雄 「『いでたつ』と『たちいづ』」 『山口大学文学会誌』15(1)
- 1965 野林正路 「核文の設定と変形への段どり」 『国語学』63
- 1965 佐久間博子 「『源氏物語』の複合動詞—「思ふ」を含むものについて」 『国文学攷』37、広島大学国語国文学会
- 1966 関 一雄 「『かへりみる』と『みかへる』の消長(1)—複合動詞変遷の一例」 『山口大学文学会誌』17(2)
- 1967 関 一雄 「『かへりみる』と『みかへる』の消長(2)—複合動詞変遷の一例」 『山口大学文学会誌』18(1)
- 1968 関 一雄 「『かへりみる』と『みかへる』の消長(3)—複合動詞変遷の一例」 『山口大学文学会誌』19(1)
- 1968 新山茂樹 「『和英語林集成』に見えるサ変複合動詞について-上-初版・三版における異同事例の一考察」 『国学院雑誌』69(10)、国学院大学出版部
- 1968 新山茂樹 「『和英語林集成』に見えるサ変複合動詞について-初版・三版における異同事例の一考察-下」 『国学院雑誌』69(12)、国学院大学出版部
- 1969 関 一雄 「平安時代のアクセントと複合動詞に関する私見—「扇をさし隠す」の解釈をめぐって—」 『山口大学文学会誌』20(1)

- 1968 種 友明 「『万葉集』のカ変上接複合動詞について」 『和洋女子大学大学紀要』13
- 1969 寺村秀夫 「活用語尾・助動詞・補助動詞とアスペクト（その一）」 『日本語・日本文化』1、大阪外国語大学
- 1969 中村幸弘 「『万葉集』中の「思ひー」型複合動詞について」 『国語研究28』、国学院大学国語研究会
- 1969 秋本守英 「語構成と文構成」 『王朝』1

1970年

- 1970 宮島達夫 「語いの類似度」 『国語学』82
- 1971 関 一雄 「補助動詞と用言的接尾語」 『国語と国文学』48(12)
- 1972 宮島達夫 『動詞の意味・用法の記述的研究』 秀英出版
- 1972 中村幸弘 「補助活用型助動詞と補助動詞「侍り」--「奏し侍らまほしきを」と「聞えまほしう侍るを」となど」 『国語研究』33
- 1973 阪倉篤義 『語構成の研究』 角川書店
- 1973 中村幸弘 「源氏物語中の「思ひー」型複合動詞の尊敬表現―「思ひー給ふ」と「おぼしー」―」 『今泉博士古稀記念国語学論叢』 桜楓社
- 1973 Shibatani, Masayoshi “Where morphology and syntax clash: A case in Japanese aspectual verbs.” 『言語研究』64: 65-96.
- 1973 Kuno, Susumu *The Structure of the Japanese Language*. MIT Press. / 久野 暉 『日本文法研究』大修館書店
- 1974 森野繁夫 「六朝訳経の語法―補助動詞をともなう複合動詞」 『広島大学文学部紀要』33

1975年

- 1975 **Martin, Samuel** *A Reference Grammar of Japanese*. Yale University Press. [統語的複合動詞と語彙的複合動詞が混同されているが、広い意味でのアスペクト補助動詞（連用形接続，テ形接続の両方）について詳細な記述がある。]
- 1975 志村良治 「漢語における使成複合動詞の成立過程の検討」 『東北大学文学部研究年報』24
- 1975 東辻保和 「いわゆる複合動詞後項の意義論的考察―源氏物語を資料として」 『国文学攷』69、広島大学国語国文学会
- 1975 姫野昌子 「複合動詞・『～つく』と『～つける』」 『日本語学校論集』2、東京外国語大学外国語学部附属日本語学校

1976年

- 1976 姫野昌子 「複合動詞の『～あがる』、『あげる』および下降を表す複合動詞類」 『日本語学校論集』3、東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 1976 長嶋善郎 「複合動詞の構造」 『日本語講座4 日本語の語彙と表現』大修館書店
- 1976 Masica, Colin P. *Defining A Linguistic Area: South Asia*. Chicago: University of Chicago Press.

1977年

- 1977 姫野昌子 「複合動詞『～でる』と『～だす』」 『日本語学校論集』4、東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 1977 城田 俊 「《う/よう》の基本的意味」 『国語学』110

- 1977 関 一雄 『国語複合動詞の研究』 笠間書院
 1977 松田三千代 「紫式部日記の複合動詞」 『成蹊国文』10、成蹊大学文学部
 日本文学科

1978年

- 1978 白鳥多寿子 「平安朝和文に見られる複合動詞の下位成分—その一 強調の
 意を添える動詞—」 『文教大学国文』7
 1978 東辻保和 「平安時代複合動詞後項索引稿—上—」 『高知大学学術研究報
 告 人文科学』27
 1978 内田賢徳 「複合動詞論のために」 『帝塚山学院大学研究論集』13
 1978 姫野昌子 「複合動詞『～こむ』および内部移動を表す複合動詞類」 『日
 本語学校論集』5、東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
 1978 森田良行 「日本語の複合動詞について」『講座日本語教育』第14分冊、早稲
 田大学語学教育研究所
 1978 Tagashira, Yoshiko *Characterization of Japanese Compound Verbs*. Ph.D.
 dissertation University of Chicago

1979年

- 1979 長嶋善郎 「アゲル・キル・オエル・オワル」(柴田武・國廣哲彌・長嶋善郎・
 山田進・浅野百合子『ことばの意味3 辞書に書いていないこと』に収録、平凡
 社、1982)
 1979 東辻保和 「平安時代複合動詞後項索引稿—下—」 『高知大学学術研究報
 告 人文科学』28
 1979 姫野昌子 「複合動詞『～かかる』と『～かける』」 『日本語学校論集』6、
 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
 1979 内田賢徳 「『あり』を前項とする複合動詞の構成」 『万葉』101、万葉学
 会

1980年

- 1980 影山太郎 『日英比較 語彙の構造』 松柏社
 1980 美尾浩子 「日本語における複合動詞表現の多様性」 『静岡女子大学研究
 紀要』14
 1980 姫野昌子 「複合動詞「～きる」と「～ぬく」, 「～とおす」」 『日本語学校
 論集』7、東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
 1980 東辻保和 「平安時代の複合動詞後項について」 『国語教育研究』26上、
 広島大学教育学部光葉会
 1980 Farmer, Ann K. *On the Interaction of Morphology and Syntax*. Unpublished Ph.D.
 Dissertation, Massachusetts Institute of Technology.
 1980 Miyagawa, Shigeru. *Complex Verbs and the Lexicon*. Unpublished Ph.D.
 Dissertation, University of Arizona.

1981年

- 1981 奥津敬一郎 「移動変化動詞文—いわゆる spray paint hypallageについて—」『国語
 学』127

1982年

- 1982 Kageyama, Taro “Word Formation in Japanese.” *Lingua* 57(2-4): 215-258.
1982 姫野昌子 「対称関係を表す複合動詞—「～あう」と「～あわせる」をめぐって」 『日本語学校論集』 9、東京外国語大学附属日本語学校
1982 姫野昌子 「補助動詞 II 動詞の連用形に付く補助動詞及び複合動詞後項」 日本語教育学会（編）『日本語教育事典』 122-123, 大修館書店
1982 前田綱紀 「『……している, ……してある』の日本語朝鮮語対照」 『日本語教育』 48: 66-76

1983年

- 1983 山本清隆 「複合動詞における格の問題」 『国語学』 132
1983 金水 敏 「上代・中古のキルとヲリー状態化形式の推移—」 『国語学』 134
1983 富山民蔵 『語構成から見た日本書紀・古事記の語・語彙の比較研究—古事記の性格に関する研究（下）』 風間書房
1983 田辺和子 「複合動詞の意味と構成—「～ダス」・「～アゲル」を中心に」 『日本語と日本文学』 3
1983 石井正彦 「現代語複合動詞の語構造分析における一観点」 『日本語学』 2-8
1983 石井正彦 「現代語複合動詞の語構造分析—<動作>・<変化>の観点から—」 『国語学研究』 23
1983 土屋博嗣 「「～を出す」を伴う複合動詞の受動形」 『亜細亜大学教養部紀要』 27、亜細亜大学教養部
1983 須賀一好 「現代語における複合動詞の自・他の形式について」 『静岡女子大学研究紀要』 17
1983 久野 暉 『新日本文法研究』 大修館書店
1983 山本清隆 「複合語の構造とシンタクス」 『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究—5』 315-380, 情報処理振興事業協会
1983 奥津敬一郎 「授受表現の対照研究—日・朝・中・英の比較—」 『日本語学』 2(4): 22-30

1984年

- 1984 石井正彦 「複合動詞の成立—V+Vタイプの複合名詞との比較—」 『日本語学』 3-11
1984 斎藤倫明 「複合動詞構成要素の意味」、国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究5』 399-414. 和泉書院
1984 青木千代吉 「複合動詞の研究—いわゆる接尾語との複合について」 『上田女子短期大学紀要』 7
1984 寺村秀夫 『日本語のシンタクスと意味II』 くろしお出版
1984 山本清隆 「複合動詞の格支配」 『都大論究』 21: 32-49.
1984 南 芳公 「いわゆる複合動詞の後項について—古今集における「～かへる」の解釈をめぐって」 『語学文学』 22、北海道教育大学語学文学会
1984 生越直樹 「日本語複合動詞後項と朝鮮語副詞・副詞的な語句との関係—日本語副詞指導の問題点」 『日本語教育』 52、日本語教育学会
1984 Farmer, Ann K. *Modularity in Syntax: A Study of Japanese and English*. Cambridge, MA: The MIT Press.

1985年

- 1985 島村礼子 「複合語と派生語—漢語系複合動詞を中心に」 『津田塾大学紀要』 17
- 1985 斎藤倫明 「複合動詞後項の接辞化—「返す」の場合を対象として—」 『国語学』 140

1986年

- 1986 **Yoshiko Tagashira and Jean Hoff** *Handbook of Japanese Comopund Verbs* (『日本語複合動詞ハンドブック』) 北星堂書店
- 1986 斎藤倫明 「複合動詞音便形の意味—「接頭辞化」と「強調化」をめぐって」 『宮城教育大学国語国文』 16
- 1986 小口叔枝 「複合動詞「V₁+あう」の名詞化へのハイアラキ」 『麗沢大学紀要』 43
- 1986 Sugioka, Yoko *Interaction of Derivational Morphology and Syntax in Japanese and English*. Garland (Ph.D. dissertation, University of Chicago)

1987年

- 1987 新美和昭・山浦洋一・宇津野登久子 『複合動詞 外国人のための日本語例文・問題シリーズ』 荒竹出版
- 1987 石井正彦 「漢語サ変動詞と複合動詞」 『日本語学』 6-2
- 1987 石井正彦 「複合動詞の成立条件」 『ケーススタディ日本文法』 桜楓社
- 1987 野村雅昭・石井正彦 『複合動詞資料集』 国立国語研究所 [小説その他から約7000例を収集。ただし統語的複合動詞も含まれている。]
- 1987 鵜殿倫次 「中国語の方向性複合動詞と場所目的語」 『愛知県立大学外国語学部紀要, 言語・文学編』 19
- 1987 関 一雄 「源氏物語の派生動詞(一)——いわゆる接頭語による物語用語づくり——」 『文学会志』 38:39-57. 山口大学
- 1987 塚本秀樹 「日本語における複合動詞と格支配」 『言語学の視界 小泉保教授還暦記念論文集』 127-144. 大学書林
- 1987 益岡隆志 『命題の文法—日本語文法序説—』 くろしお出版

1988年

- 1988 関 一雄 「源氏物語の派生動詞(二)——いわゆる接頭語による物語用語づくり——」 『山口国文』 11: 36-47. 山口大学
- 1988 鵜殿倫次 「中国語の使役・連動と方向性複合動詞」 『愛知県立大学外国語学部紀要, 言語・文学編』 20
- 1988 石井正彦 「辞書に載る複合動詞・載らない複合動詞」 『日本語学』 7-5
- 1988 石井正彦 「接辞化の一類型—複合動詞後項の補助動詞化—」 『方言研究年報』 30
- 1988 斎藤倫明 「複合動詞「引く+〜」の意味の多様性」 『国語学』 152
- 1988 山口佳紀 「古代語の複合語に関する一考察—連濁をめぐって」 『日本語学』 7 (5)
- 1988 犬飼隆 「平安末期複合動詞の意味構造—『分類語彙表』を利用する方法の試み」 『国語語彙史の研究 九』 和泉書院

1989年

- 1989 Kageyama, Taro “The Place of Morphology in the Grammar: Verb-Verb Compounds in Japanese.” In: Geert Booij and Jaap van Marle (eds.) *Yearbook of Morphology 2*: 73-94. Dordrecht: Foris.
- 1989 小田朗美 「日英複合動詞の形式的・意味的特徴及び発想について」 『ノートルダム清心女子大学紀要. 外国語・外国文学編』 13 (1)
- 1989 嶋田裕司 「日本語の複合動詞と複合名詞の意味的相違」 『横浜市立大学論叢 人文科学系列』 40 (3)
- 1989 藤井俊博 「続紀宣命の複合動詞—漢語との関係を中心として」 『国文学論叢』 34、龍谷大学国文学会出版部
- 1989 上野和昭 「近世における複合動詞のアクセント」 『国語学研究と資料』 13
- 1989 Miyagawa, Shigeru. *Syntax and Semantics 22: Structure and Case Marking in Japanese*. San Diego, CA: Academic Press.

1990年

- 1990 望月圭子 「日・中両語の結果を表わす複合動詞」 『東京外国語大学論集』 40
- 1990 藤井俊博 「今昔物語集の語彙形成：複合動詞の構成を通して」 『同志社国文学』 33
- 1990 待場裕子 「日中の複合動詞の対照研究（一）—中国語の「動詞＋結果補語」構造の場合」 『流通科学大学論集 人文・自然編』 2 (2)
- 1990 鈴木孝夫 『日本語講座新装版4 日本語の語彙と表現』 大修館書店
- 1990 塚本秀樹 「日朝対照研究と日本語教育」 『日本語教育』 72: 68-79
- 1990 深見兼孝 「日本語の『ていく・てくる』と韓国語のa/ə gada・a/ə oda」 『広島大学教育学部紀要 第2部』 38: 47-52

1991年

- 1991 南場尚子 「複合動詞後項の位置づけ」 『同志社国文学』 34
- 1991 待場裕子 「日中の複合動詞の対照研究（二）—中国語の「動詞＋方向補語」構造の場合」 『流通科学大学論集 人文・自然編』 3 (2)
- 1991 藤井俊博 「説話文学の複合動詞—基調語彙の一側面として」 『国文橋』 18
- 1991 姫野昌子 「複合動詞について」 『月刊 日本語』 4 (11)
- 1991 林 慧君 「現代語複合動詞の構造について—動詞の自他を通して」 『語文研究』 72、九州大学国語国文学会
- 1991 生越直樹 「朝鮮語어 보다 ㄴ poda, 고 보다 ko poda と日本語『てみる』」 『日本語学』 10(12): 90-101

1992年

- 1992 待場裕子 「日中の複合動詞の対照研究（三）—中国語の「動詞・形容詞＋派生義を表す方向補語」構造の場合（上）」 『流通科学大学論集 人文・自然編』 4 (2)
- 1992 斎藤倫明 『現代日本語の語構成論的研究—語における形と意味』 ひつじ書房
- 1992 石井正彦 「動詞の結果性と複合動詞」 『国語学研究』 31

- 1992 中村その子 「現代語複合動詞の多様性—比喻性との関連において」 『関東学院大学文学部紀要』 66
- 1992 Nishigauchi, Taisuke “Syntax of Reciprocal in Japanese” *Journal of East Asian Linguistics* 1: 157-196.

1993年

- 1993 林 四郎 「語の意味づきと意味づけ、その循環」 『国語学』 175
- 1993 影山太郎 『文法と語形成』 ひつじ書房 [連用形接続の複合動詞を語彙的複合動詞と統語的複合動詞に分類し、それぞれの特性を明らかにしている]
- 1993 待場裕子 「日中の複合動詞の対照研究(四)—中国語の「動詞・形容詞+派生義をあらわす方向補語」構造の場合(下)」 『流通科学大学論集 人文・自然編』 5 (2)
- 1993 塚本秀樹 「複合動詞と格支配—日本語と朝鮮語の対照研究—」 仁田義雄(編) 『日本語の格をめぐる』 225-246, くろしお出版
- 1993 柴公也 「『～テイル』の意味と用法について—対応する韓国語の表現との対照研究—」 『日本學報』 31: 105-129. 韓国日本学会

1994年

- 1994 森田良行 『動詞の意味論的文法研究』 明治書院
- 1994 山王丸有紀 「中古複合動詞意味重点の一考察」 『成蹊国文』 27、成蹊大学文学部日本文学科
- 1994 門脇誠一 「日・韓語対照研究—授受動詞の補助動詞的用法を中心に—」 『北海道大学留学生センター年報』 2: 101-110
- 1994 Falsgraf, Carl and Insun Park. Synchronic and Diachronic Aspects of Complex Predicates in Korean and Japanese. In Noriko Akatsuka (ed.) *Japanese/Korean Linguistics* 4: 221-237. Stanford, CA: CSLI Publications.
- 1994 Shibatani, Masayoshi. Benefactive Constructions: A Japanese-Korean Comparative Perspective. In Noriko Akatsuka (ed.) *Japanese/Korean Linguistics* 4: 39-74. Stanford, CA: CSLI Publications.
- 1994 Strauss, Susan. A Cross-Linguistic Analysis of Japanese, Korean and Spanish: *-te shimau*, *-a/e pelita*, and the ‘Romance Reflexive’ *se*. In Noriko Akatsuka (ed.) *Japanese/Korean Linguistics* 4: 257-273. Stanford, CA: CSLI Publications.

1995年

- 1995 高原璃穂 「現代複合動詞前項と後項の意味の関係—「～だす」を対象として」 『フェリス女学院大学日文学部紀要』 3
- 1995 坂原 茂 「複合動詞「Vて来る」の2つのアスペクト用法」 『日本認知科学会大会論文集 = Annual meeting of the Japanese Cognitive Science Society』 12
- 1995 林 翠芳 「三次結合複合動詞と二次結合複合動詞とのかかわり」 『同志社国文学』 42
- 1995 田辺和子 「日本語の複合動詞の後項動詞にみる文法化」 『日本女子大学紀要文学部』 45
- 1995 須田義治 「動作の始まりを表す「しだす」と「しはじめる」の違いについて—類義語の理論的な考察の試み—」 『日本語学科年報』 17

- 1995 塚本秀樹 「膠着言語と複合構造—特に日本語と朝鮮語の場合—」 仁田義雄 (編)『複文の研究(上)』63-85, くろしお出版
- 1995 生越直樹 「朝鮮語헷다形, 해 있다形(하고 있다形)と日本語シタ形, シテイル形」 『国立国語研究所研究報告集』16: 185-206

1996年

- 1996 影山太郎 『動詞意味論—言語と認知の接点—』くろしお出版(中国語翻訳『動詞語義学—語言与認知的接点』于康, 張勤, 王占華(訳)、2001、中央広播電視大学出版社)
- 1996 **Matsumoto, Yo** *Complex Predicates in Japanese: A Syntactic and Semantic Study of the Notion 'Word'*. Stanford: CSLI, Tokyo: Kurosio Publishers.
- 1996 Hasselberg, Iris *Verbalkomposita im Japanischen*. Hamburg: Buske.
- 1996 三宅知宏 「日本語の受益構文について」 『国語学』186
- 1996 神谷かをる 「古今集の語彙: 複合動詞を中心に」 『光華女子大学研究紀要』34
- 1996 山王丸有紀 「古典語複合動詞の構造: IV型複合動詞の発見」 『成蹊人文研究』4
- 1996 安 善柱 「複合動詞の構造分析に関する一考察—前・後項動詞とも単独用法での意味・機能を保っている組み合わせを中心に」 『言語学論叢』14
- 1996 大島悦子 「複合動詞」における後部要素の用法について—『源氏物語』を例として— 『早稲田大学教育学部学術研究 国語・国文学編』45
- 1996 永井鉄郎 「日本語複合動詞の教育について」 『日本語教育』88、日本語教育学会
- 1996 林 翠芳 「古典語複合動詞から現代語複合動詞へ」 同志社国文学『44』
- 1996 岡野幸夫 「平安・鎌倉時代の和文における「はつ(果)」「をはる(終)」の意味用法—補助動詞的な複合動詞後項の意味用法の通時的研究のために— 『国文学攷』152、広島大学国語国文学会
- 1996 黄順花(ファン=スンファ) 「日本語のシテヤル・シテクレル—日本語と韓国語—」 『国文学 解釈と鑑賞』61(7): 86-93
- 1996 李暲洙(イ=ギョンス) 「日・韓両語における複合動詞『一出す』と『一내다』の対照研究—本動詞との関連を中心に—」 『日本語教育』89: 76-87
- 1996 李美淑(イ=ミスク) 「スルとシテイル—韓国語と日本語の動詞のアスペクト—」 『国文学 解釈と鑑賞』61(7): 72-77
- 1996 岡 智之 「日本語と朝鮮語のパーフェクトをめぐって—シテイル形と헷다{haissda}形の対応を中心に—」 『日本語・日本文化研究』6: 71-85, 大阪外国語大学日本語講座
- 1996 藤井義久 「「~あう」の意味論」 『神戸大学留学生センター紀要』3: 57-66.
- 1996 由本陽子 「語形成と語彙概念構造—日本語の『動詞+動詞』の複合語形成について—」 奥田博之教授退官記念論文集刊行会(編)『言語と文化の諸相—奥田博之教授退官記念論文集—』105-118. 英宝社

1997年

- 1997 岡野幸夫 「鎌倉時代における補助動詞的な複合動詞後項の意味用法」 『国語学』188

- 1997 大島悦子 「複合動詞」における後部要素の用法について—『源氏物語』を例として— 『早稲田大学教育学部学術研究 (国語・国文学)』45
- 1997 斎藤倫明・石井正彦 『日本語研究資料集 語構成』ひつじ書房
- 1997 影山太郎・由本陽子 『語形成と概念構造』研究社
- 1997 松本 曜 1997 「空間移動の言語表現とその拡張」 『日英語比較選書6 空間と移動の表現』研究社
- 1997 高原瑞穂 「複合動詞前項の意味に関する一考察—「飛び〜」を対象として— 『フェリス女学院大学日文大学院紀要』5
- 1997 江田すみれ 「専門書における複合動詞の用法と指導上の留意点—日本語学関係の本の用例をもとに—」 『杏林大学外国語学部紀要』9
- 1997 大山シアノ 「V-V複合動詞における認知言語学的考察—「〜出す」複合動詞に関して—」 『教育学研究紀要』43 (第2部)、中国四国教育学会
- 1997 川北直子 「<上>が<下>の反義でなくなるときの—日本語複合動詞における後項動詞—」 『藝文研究』72、慶応義塾大学芸文学会
- 1997 イ キョンス 「中間的複合動詞「きる」の意味用法の記述—本動詞「切る」と前項動詞「切る」、後項動詞「一切る」と関連づけて—」 『世界の日本語教育 日本語教育論集』7
- 1997 余田弘実 「加熱調理操作を表わす複合動詞に関する報告—江戸時代料理書を資料にして—」 『西山学報』45、京都西山短期大学
- 1997 内山政春 「現代朝鮮語における合成用言について—〈用言第Ⅲ語基+用言〉の分析—」 『朝鮮学報』165: 39-114
- 1997 李暉洙 (イ=ギョンス) 『韓・日両言語の複合動詞と対照研究—文法と語彙—』韓国ソウル: J&C
- 1997 由本陽子 「複合動詞を作る『〜直す』の意味と構造—英語の接頭辞re-との相違を参考に—」 『言語と文化の対話』177-191. 英宝社

1998年

- 1998 桑原文代 「変化の開始を表す「〜はじめる」」 『日本語教育』99、日本語教育学会
- 1998 仁田義雄 「相互構文を作る「Vシアウ」をめぐる」 『阪大日本語研究』10
- 1998 蜂矢真郷 『国語重複語の語構成論的研究』塙書房
- 1998 小林英樹 「複合による他動化」 『国語学』192
- 1998 合田時江 「「思う」ことと「見る」こと—源氏物語の複合動詞を中心に—」 『園田学園女子大学論文集』33 (I)
- 1998 神谷かをる 「近代詩・短歌・唱歌・流行歌の複合動詞による韻文的語彙—古典語 (古今集) との比較—」 『光華日本文学』6
- 1998 ウィライラック タンシリトンチャイ 「タイ人日本語学習者による複合動詞「〜きる」の誤用について」 『藝文研究』74
- 1998 大島悦子 「平安時代和文資料における「-ユク(行)」「-ク(来)」の意味用法」 『十文字学園女子短期大学研究紀要』29
- 1998 大野純子 「複合動詞と接辞ラレ」 『大正大学研究紀要 人間学部・文学部』83
- 1998 秋山 淳 「語彙概念構造と動補複合動詞」 『中国語学245』 日本中国語学会
- 1998 中村その子 「日本語複合動詞の意味形成と特性:言語認知の立場から」 『経営・情報研究:多摩大学研究紀要』2、多摩大学

- 1998 松本 曜 「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」 『言語研究』 114
- 1998 岡野幸夫 「複合動詞の構成要素間に介在する係助詞の意味機能—『源氏物語』を対象として」 『山口国文』 21
- 1998 朴 敏英 「<始動>の意味を表す複合動詞—文脈に見られる局面の違いを中心として」 『言語・地域文化研究』 4、東京外国語大学
- 1998 謝 育新 「日本語の複合動詞の後項部分と中国語の方向補語との対応関係について」 『無差』 5、京都外国語大学
- 1998 文 慶喆 「構成要素の存在様式から見た複合動詞「+切る」の諸構造」 『文芸研究』 146、日本文芸研究会
- 1998 塚本秀樹 「語形成と複合動詞—日本語と朝鮮語の対照研究—」 『筑波大学 東西言語文化の類型論特別プロジェクト 研究報告書 平成9年度 I (Part I)』 161-172. 筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織
- 1998 강현화 (カン=ヒョンファ) 『국어의 동사연결 구성에 대한 연구 (国語の動詞連結構成に関する研究)』 韓国ソウル: 한국문화사 (韓国文化社)
- 1998 Shirai, Yasuhiro. Where the Progressive and the Resultative Meet: A Typology of Imperfective Morphology in Japanese, Korean, Chinese and English. In Noriko Akatsuka et al. (eds.) *Japanese/Korean Linguistics 7*: 257-273. Stanford, CA: CSLI Publications.
- 1998 Strauss, Susan and Sung-Ock Sohn. Grammaticalization, Aspect, and Emotion: The Case of Japanese *-te simau* and Korean *-a/e pelita*. In David J. Silva (ed.), *Japanese/Korean Linguistics 8*: 217-230. Stanford, CA: CSLI Publications.
- 1998 Nishiyama, Kunio “V-V Compounds as Serialization” *Journal of East Asian Linguistics 7*: 175-217.

1999年

- 1999 影山太郎 『形態論と意味』 くろしお出版
- 1999 Kageyama, Taro “Word Formation.” In: Natsuko Tsujimura (ed.) *The Handbook of Japanese Linguistics*, 297-325. Oxford: Blackwell.
- 1999 山王丸有紀 「古典語複合動詞の研究」 『成蹊人文研究』 7
- 1999 姫野昌子 『複合動詞の構造と意味用法』 ひつじ書房
- 1999 鈴木 泰 「古典対照語い表と分類語彙表—「行く」を後項素とする複合動詞の場合」 『国文学解釈と鑑賞』 64 (1)、至文堂
- 1999 小島聡子 「複合動詞後項「行く」の変遷」 『国語と国文学』 76 (4)、東京大学国語国文学会、至文堂
- 1999 甲斐朋子 「複合動詞「～こむ」の程度深化の用法 (第二言語としての日本語、第二言語としての英語をどう教えるか)」 『ポリグロシア』 2、立命館大学言語教育センター
- 1999 林 翠芳 「古典語複合動詞の消長—「思う」を中心に—」 『ポリグロシア』 第2巻、立命館大学言語教育センター
- 1999 緒方隆文 「完了の句動詞と複合動詞」 『神戸山手女子短期大学紀要』 42
- 1999 Koizumi, Masatoshi *Phrase Structure in Minimalist Syntax*. Hituzi
- 1999 大木正義 「余滴 蜻蛉日記における複合動詞」 『解釈』 45 (5・6)

2000年

- 2000 林 翠芳 『日本語複合動詞の研究』 中山大学出版社 (中国)

- 2000 山川 太 「複合動詞「～すぎる」について」 『日本語・日本文化』26、大阪外国語大学留学生日本語教育センター
- 2000 新居田純野 「日本語の複合動詞とそれに対応する英語の表現形式との対比に向けての一試論」 『フェリス女学院大学文学部紀要』35
- 2000 青木博史 「複合動詞「～なす」について」 『国語国文』69(11)、京都大学文学部国語国文学研究室
- 2000 百留康晴 「近世複合動詞の歴史的様相」 『言語科学論集』4、東北大学大学院文学研究科
- 2000 土井裕美子 「平安・鎌倉時代における「さわぐ」を構成要素とする複合動詞語彙」 『鎌倉時代語研究 23』武蔵野書院
- 2000 岡野幸夫 「『とはずがたり』の複合動詞:数量的概観」 『鎌倉時代語研究 23』武蔵野書院
- 2000 由本陽子 「V⁰を補部とする統語的複合動詞について」 藤井治彦先生退官記念論文集刊行会(編)『藤井治彦先生退官記念論文集』895-908. 英宝社

2001年

- 2001 影山太郎編 『日英対照動詞の意味と構文』大修館
- 2001 岡野幸夫 「『和泉式部日記』の複合動詞」 『鳥取短期大学研究紀要』43
- 2001 岡田幸彦 「空間移動を表す動詞の分析—構文特性・アスペクト特性・タクシス特性に基づいて」 『日本語科学』(10)
- 2001 松田文子 「複合動詞後項「～こむ」の意味」 『人間文化論叢』4、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
- 2001 松田文子 「コア図式を用いた複合動詞後項「～こむ」の認知意味論的説明」 『日本語教育』111、日本語教育学会
- 2001 寺田裕子 「日本語の二類の複合動詞の習得」 『日本語教育』109、日本語教育学会
- 2001 浜田奈穂子 「局面動詞『しかける』について」 『日本研究教育年報』5
- 2001 石井正彦 「複合動詞の語構造分類」 『国語語彙史の研究』20、和泉書院
- 2001 木村裕章 「中国語における動賓構造の複合動詞内部の結合性について」 『東亜法学論叢』6、東亜大学法学部
- 2001 山王丸有紀 「古典語に於ける三語から成る複合動詞」 『成蹊國文』34
- 2001 姫野昌子 「複合動詞の性質」 『日本語学』20(9)、明治書院
- 2001 小林英樹 「複合動詞の文法」 『日本語学』20(9)、明治書院
- 2001 小島聡子 「平安時代の複合動詞」 『日本語学』20(9)、明治書院
- 2001 百留康晴 「動詞連接から複合動詞へ—「入る」の補助動詞化を中心に」 『文芸研究』152、日本文芸研究会
- 2001 百留康晴 「継続を表す補助動詞「—続ける」の成立」 『言語科学論集』5, 120(1)-109(12). 東北大学大学院文学研究科
- 2001 藤井俊博 「今昔物語集の漢語サ変動詞—複合動詞の構成を通して」 『同志社大学留学生別科紀要』1
- 2001 何 志明 「日本語の語彙的複合動詞における「原因」の複合動詞の組み合わせ」 『筑波応用言語学研究』8
- 2001 井上優 「中国語・韓国語との比較から見た日本語のテンス・アスペクト」 『言語』30(13): 26-31
- 2001 Thomas Gamerschlag “Complex Predicate Formation and Argument Structure of Japanese V-V Compounds” *Japanese/Korean Linguistics* 10.

- 2001 Timothy J. Vance “Semantic Bifurcation in Japanese Compound Verbs”
Japanese/Korean Linguistics 10.
- 2001 Yumoto, Yoko “A Modular Approach to the Semantic Interpretation of Syntactic V-V Compounds” *Journal of Japanese Linguistics* 17: 125-150.

2002年

- 2002 Toratani, Kiyoko *The Morphosyntactic Structure and Logical Structures of Compound Verbs in Japanese*. Ph.D. dissertation University of New York at Buffalo
- 2002 石井正彦 「「既製」の複合動詞と「即席」の複合動詞—小説にみる現代作家の語形成—」 『国語論究10 現代日本語の文法研究』 明治書院
- 2002 由本陽子 「語彙概念構造の組み替えを伴う統語的複合語」 伊藤たかね編『シリーズ言語科学1 文法理論 レキシコンと統語』 東京大学出版会
- 2002 今泉志奈子・郡司隆男 「語彙的複合における複合事象」 伊藤たかね編『シリーズ言語科学1 文法理論 レキシコンと統語』 東京大学出版会
- 2002 松本 曜 「使役移動構文における意味的制約」 『シリーズ言語科学2 認知言語学I：事象構造』 東京大学出版会
- 2002 影山太郎 「語彙と文法」 斎藤倫明編『朝倉日本語講座4：語彙・意味』 朝倉書店
- 2002 影山太郎 「概念構造の拡充パターンと有界性」 『日本語文法』2 (2)、日本語文法学会
- 2002 井本 亮 「複合動詞「Vーすぎる」の意味解釈について」 『言語科学研究 神田外語大学大学院紀要』8
- 2002 伊藤たかね・杉岡洋子 『語の仕組みと語形成』 研究社
- 2002 伊藤たかね編 『シリーズ言語科学1 文法理論 レキシコンと統語』 東京大学出版会
- 2002 百留康晴 「複合動詞後項「一出す」における意味の歴史的変遷」 『文化』66 (1・2)、東北大学文学会
- 2002 日野資成 「複合動詞「一出す」の分類—統語論的・意味論的方法を使って」 『日本研究国際日本文化研究センター紀要』25
- 2002 何 志明 「日本語の語彙的複合助詞における「手段」の複合助詞の組み合わせ」 『日本語教育』115、日本語教育学会
- 2002 何 志明 「「様態・付帯状況」の複合動詞の組み合わせ」 『日本語と日本文学』35、筑波大学国語国文学会
- 2002 何 志明 「日本語の語彙的複合動詞における「並列関係」の複合動詞の組み合わせ」 『言語学論叢』21、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科
- 2002 趙 南弼 「三島由紀夫『豊饒の海』における局面を表す複合動詞の研究」 『岡大國文論稿』30、岡山大学文学部日本語日本文学研究室
- 2002 金 美仙 「現代日本語の複合動詞「～しつづける」のアスペクト性について」 『言語・地域文化研究』8、東京外国語大学大学院
- 2002 松田文字 「日本語学習者による複合動詞「～こむ」の習得」 『世界の日本語教育 日本語教育論集』12
- 2002 酒匂志野 「源氏物語における複合動詞「～しそむ」の意味」 『国文』97、お茶の水女子大学国語国文学会
- 2002 李 良林 「語彙的複合動詞における構成要素の組み合わせ—再帰性に基づく他動性の観点から」 『言語科学論集』6. 東北大学大学院文学研究科

- 2002 井上優・生越直樹・木村英樹 「テンス・アスペクトの比較対照—日本語・朝鮮語・中国語—」 生越直樹(編)『シリーズ言語科学4 対照言語学』125-159. 東京大学出版会

2003年

- 2003 橋本 力 「日本語HPSG—統語的複合動詞の統語・意味構造の処理(言語知識・解析・言い換え)」 『情報処理学会研究報告. NL, 自然言語処理』 2003 (76)
- 2003 杉浦 隆 「「オノマトペ+つく」の形式を持つ日本語の複合動詞について」 『大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要』 2
- 2003 池谷知子 「終了を表す複合動詞後項「～おわる」と「～おえる」について」 『日本語・日本文化研究』 13
- 2003 東辻保和編 『平安時代複合動詞索引』 清文堂出版
- 2003 谷口龍子 「日本語と中国語のV1 + V2型複合動詞—日本語教育へ向けての対照分析」 『日本語と日本語教育』 32、慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
- 2003 小林英樹 「漢語複合動詞をめぐって」 『語学と文学』 39、群馬大学語文学会
- 2003 成 允廷 「古代語の終了段階を表す複合動詞の後項要素についての考察—『源氏物語』の「はつ」, 『今昔物語集』の「をはる」を中心に」 『国文』 99. お茶の水女子大学国語国文学会
- 2003 百留康晴 「複合動詞と動詞接続—「～出づ」を中心に」 『国語と国文学』 80 (8)、東京大学国語国文学会、至文堂
- 2003 百留康晴 「中古動詞表現における動詞接続の展開」 『国語学研究』 42
- 2003 Naumann, Ralf and Thomas Gamerschlag “Constraining the Combinatorial Patterns of Japanese V-V Compounds: An Analysis in Dynamic Event Semantics.” *Journal of Semantics* 20(3): 275-296.

2004年

- 2004 林 翠芳 「複合動詞との関わりから見たV + V型複合名詞」 『ポリグロシア』 8
- 2004 影山太郎 「英語結果構文と日本語結果複合動詞におけるforce dynamics」 『人文論究』 54/1
- 2004 斎藤倫明 『語彙論的語構成論』 ひつじ書房
- 2004 松田文字 『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して』 ひつじ書房
- 2004 平澤佳代 「「V + つづける」に見る語結合と意味—中国語との比較対照の観点から」 『言語と交流』 7、言語と交流研究会
- 2004 李 良林 「「～つける」複合動詞の意味用法—連語との関わりから」 『国語学研究』 43、 『国語学研究』 刊行会
- 2004 百留康晴 「大蔵虎明本狂言集における複合動詞後項の文法化」 『文化』 68(1・2): 55-75. 東北大学文学会
- 2004 陳 曦 「中国人学習者における複合動詞の習得に関する一考察—「～あう」と「～こむ」の理解に基づいて」 『ことばの科学』 17、名古屋大学言語文化研究会
- 2004 田中衛子 「類義複合動詞の用法一考—日本語教育の視点から」 『言語と文化』 10、愛知大学語学教育研究室

- 2004 大島 一 「日本語における複合動詞の後項動詞「あがる・あげる」について—ポーランド語データとの対照研究から」 『一橋研究』28 (4)、一橋研究編集委員会
- 2004 青木博史 「複合動詞「～キル」の展開」 『国語国文』73 (9)、京都大学文学部国語学国文学研究室
- 2004 石 恩京 「現代日本語における複合動詞に関する考察:時代的相を表す後項動詞の意味分類」 『立教大学日本文学』93、立教大学日本文学会
- 2004 猿田知之 「反転する漢語—複合動詞を中心として」 『茨城キリスト教大学紀要 I 人文科学』38
- 2004 宋 殷美 「感情の複合動詞としての「待ち+V 2」」 『言語科学論集』8、東北大学大学院文学研究科
- 2004 朴 花美 「複合動詞「～サス」の意味変遷」 『文研論集』43
- 2004 Katsuo Tamaoka, Hyunjung Lim, and Sakai Hiromu “Entropy and Redundancy of Japanese Lexical and Syntactic Compound Verbs” *Journal of Quantitative Linguistics* 11(3): 233-250.
- 2004 Tomioka, Naoko “The lexicalization patterns of verbs and V-V compounds” In D. Beermann and L. Hellan, eds., *Proceedings of Workshop on Multi-Verb Constructions*, Trondheim.
- 2004 塚本秀樹 「文法体系における動詞連用形の位置づけ:日本語と韓国語の対照研究」佐藤滋・堀江薫・中村渉(編)『対照言語学の新展開』297-317. ひつじ書房
- 2004 由本陽子 「語形成のモジュール性と意味解釈—「V+そこなう」と「V+落とす」における否定の意味解釈について」 *Kansai Linguistic Society* 24: 45-55.

2005年

- 2005 彭 広陸 「日本語の複合動詞に関する一考察」 『日本文化研究』第16輯、韓国東アジア日本学会誌
- 2005 由本陽子 「「V+かえる」と「V+直す」の意味と統語」 『日本語文法』5 (2)、日本語文法学会
- 2005 由本陽子 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』 ひつじ書房
- 2005 鎌田精三郎 「日本語複合動詞「～し出す」の統語的・意味的特性について」 『城西大学語学教育センター研究年報』1
- 2005 佐野香織 「中・上級学習者の「つける」の典型概念—複合動詞類推研究に向けて」 『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要』28
- 2005 平澤佳代 「報道文に見る統語的複合動詞」 『言語と交流』8、言語と交流研究会
- 2005 宋 殷美 「類義語の複合による感情の複合動詞について」 『東北大学言語学論集』14、東北大学言語学研究会
- 2005 張 超 「VPシェル構造に基づいた二種類の複合動詞の再検討」 『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 文化教育開発関連領域』54
- 2005 呉 海運 「(動詞連用形+動詞連用形)型複合名詞について—複合動詞を背景に持たない成立群」 『野州国文学75』、国学院大学栃木短期大学国文学会
- 2005 工藤力男 「複合動詞論序説—とれたて・生まれたて」 『成城国文学』21
- 2005 工藤力男 「<立ちあげる>非文の説:複合動詞論・続」 『成城文藝』192、成城大学文芸学部

- 2005 王 怡人 「現代中国語の結果複合動詞形成—語彙的事象構造の立場から—」
『現代社会文化研究』32、新潟大学大学院現代社会文化研究科
- 2005 佐佐木 隆 「「こひまさる」の意味と用法：「恋(が)まさる」か複合動詞か」
『研究年報』52
- 2005 朴 花美 「中世日本語の複合動詞逆引き索引—『大蔵虎明本 狂言集』『エソポのハブラス』『三本対照 捷解新語』を中心に—」 『専修国文』77
- 2005 Fukushima, Kazuhiko “Lexical V-V Compounds in Japanese: Lexicon vs. Syntax.”
Language 81(3): 568-612.
- 2005 Uchiyama, Kiyoko, Timothy Baldwin and Shun Ishizaki “Disambiguating Japanese
Compound Verbs.” *Computer Speech and Language* 19(4): 497-512.
- 2005 安平鎬 (アン=ピョンホ) 「【日韓対照研究のポイント】文法・表現 (2) —
韓国語の視点から—『シテイル』と『hako iss-nun-ta』『hay iss-nun-ta』をめぐ
って」 『日本語学』24(8): 56-57
- 2005 安平鎬 (アン=ピョンホ)・福嶋健伸 「中世末期日本語と現代韓国語のテン
ス・アスペクト体系—存在型アスペクト形式の文法化の度合い—」 『日本語
の研究』1(3): 139-154

2006年

- 2006 松田文子・白石知代 「コア図式を用いた複合動詞習得支援のための基礎研
究—「とり〜」を事例として—」 『世界の日本語教育』(16)
- 2006 栗林 裕 「トルコ語の複合動詞と文法化」 *Asian and African Languages and
Linguistics* 1, 25-44. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 2006 于 康 「V上中「上」的義項分類与語義拡張機制」 『言語と文化』第
9号、関西学院大学言語教育研究センター
- 2006 于 康 「「V下」的語義拡張与結果義」 『中国語の補語』白帝社(《日
本現代漢語語法研究論文選集》に再録) 北京語言大学、2007)
- 2006 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一直す」の意味分析」 『言語
文化論集』28 (1)、名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 2006 杉村 泰 「本動詞「返す」と複合動詞「一返す」の意味の対応について」
『ことばの科学』19、名古屋大学言語文化研究会
- 2006 宋 殷美 「感情の複合動詞における後項動詞の接辞化について」 『文化』
69 (3・4)、東北大学文学会
- 2006 李 良林 「複合動詞後項における意味の広がり—「〜ぬく」の場合を対象
に」 『国語学研究』45
- 2006 柳谷里奈 「「思う」を含む複合動詞の分析」 『北海道大学大学院文学研究
科研究論集』6
- 2006 平澤洋一 「移動複合動詞にみる意味の結合」 『広島大学留学生センター
紀要』16
- 2006 加藤奈保子 「複合動詞の歴史的変遷—「〜かわす」「〜あう」を例に—」 『語
彙研究』3、語彙研究会
- 2006 中島紀子 「複合動詞に関する一考察—「〜きる」「〜とおす」「〜ぬく」の
比較から—」 『国文学踏査』18、大正大学国文学会
- 2006 陳 曦 「中国人学習者における複合動詞の習得に関する一考察:学習者の
作文産出に基づいて」 『ククロス 国際コミュニケーション論集』3、名古
屋大学大学院国際開発研究科

- 2006 青木 毅 「『水鏡』における複合動詞の諸相—文体分析のための基礎的調査として」 『国文学攷』190、広島大学国語国文学会
- 2006 木村恵介 「動補型複合動詞の構造」 『千葉大学ユーラシア言語文化論集』9
- 2006 岡野幸夫 「平安鎌倉時代における「すべる（滑）」の意味用法—複合動詞の前項が全体を代表する用法について」 『小林芳規博士喜寿記念国語学論集』汲古書院
- 2006 塚本秀樹 「日本語から見た韓国語—対照言語学からのアプローチと文法化—」 『日本語学』25(3): 16-25
- 2006 塚本秀樹 「言語現象と文法化—日本語と朝鮮語の対照研究—」 『日本語と朝鮮語の対照研究 東京大学21世紀COEプログラム「心とことば—進化認知科学的展開」研究報告書』27-61. 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻

2007年

- 2007 石井正彦 『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
- 2007 後藤英次 『吾妻鏡』における複合動詞「仰〜」 『中京国文学』26、中京大学国文学会
- 2007 金丸敏幸・村田真樹 「複合動詞と主体化に関する考察—複合動詞「〜づける」の分析を通して」 『日本認知言語学会論文集』7、日本認知言語学会
- 2007 野田大志 「分析可能性の低い語彙的複合動詞に関する一考察—「落ち着く」の意味分析」 『日本認知言語学会論文集』7、日本認知言語学会
- 2007 松本直子 「複合動詞の結果性—語彙的複合結果動詞と論理的複合結果動詞」 『日本語教育論集』16、姫路獨協大学大学院言語教育研究科
- 2007 平山允子 「中国人日本語学習者による「V1 + V2」型複合動詞の理解—Dual mechanism modelの応用可能性」 『言語科学論集』11、東北大学大学院文学研究科
- 2007 平澤佳代 「複合動詞「V + きる」の実例調査」 『言語と交流』10、言語と交流研究会
- 2007 山口真紀 「『万葉集』における「出づ」を含む複合動詞について—構成要素間の語彙的意味関係の分析を中心に」 『三田国文』45
- 2007 久保菌 愛 「薩隅方言の「〜トル」」 『文献探究』45
- 2007 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一直る」の意味分析」 『言語文化論集』28 (2)、名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 2007 宋 殷美 「「思いー」を前項とする感情の複合動詞について」 『東北大学言語学論集』16、東北大学言語学研究会
- 2007 宋 殷美 「上昇・下降を表す動詞との結合による感情の複合動詞について」 『文化』70 (3・4)、東北大学文学会
- 2007 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一戻す」の意味分析」 『言語文化論集』29 (1)、名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 2007 杉村 泰 「複合動詞「一疲れる」の前項動詞の特徴について」 『ことばの科学』20、名古屋大学言語文化研究会
- 2007 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞の類義分析—インターネット検索エンジンの利用—」 『言葉と文化』8、名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 2007 小俣佳啓 「複合動詞「〜きる」「〜ぬく」「〜とおす」について」 『外国語学会誌』37、大東文化大学外国語学会

- 2007 高橋葉子 「複合動詞「V+ダス」の解釈」 『言語科学研究:神田外語大学大学院紀要』13
- 2007 松本知子 「日本語の語彙的複合動詞における「行く」と「来る」について」 『同志社女子大学大学院文学研究科紀要』7 同志社女子大学大学院文学研究科
- 2007 赤井赳哉 「『枕草子』における方法としての「笑ひ」—雪山章段における「笑ふ」の複合動詞を中心に」 『三重大学日本語学文学』18
- 2007 申 亜敏 「中国語の結果複合動詞の項構造と語彙概念構造」 『レキシコンフォーラム』3、ひつじ書房
- 2007 陳 曦 「日本語複合動詞の習得状況と指導への問題提起—中国西安外国語大学における「～あう」「～こむ」の調査を中心に」 『国際開発研究フォーラム』35(名古屋大学大学院国際開発研究科、
- 2007 陳 曦 「学習者と母語話者における日本語複合動詞の使用状況の比較—コーパスによるアプローチ」 『日本語科学』22、国書刊行会
- 2007 浅尾仁彦 「意味の重ね合わせとしての日本語複合動詞」 『京都大学言語学研究』26
- 2007 Toratani, Kiyoko “A Semantic and Pragmatic Account of the -te-ar Construction in Japanese.” *Journal of Japanese Linguistics* 23: 47-75.
- 2007 白以然 (ペク=イヨン) 「韓国語母語話者の複合動詞『～出す』の習得—日本語母語話者と意味領域の比較を中心に—」 『世界の日本語教育 日本語教育論集』17: 79-91. 国際交流基金日本語事業部
- 2007 朴墉一 (パク=ヨンイル) 「韓国語の『V-eo/a-beorida』文、『V-go-malda』文と『Vてしまう』文の意味解釈と統語構造」 *Kansai Linguistic Society* 27: 120-130
- 2007 Shibatani, Masayoshi and Sung Yeo Chung. “On the Grammaticalization of Motion Verbs: A Japanese-Korean Comparative Perspective” In Naomi Hanaoka McGloin and Junko Mori (eds.) *Japanese/Korean Linguistics* 15: 21-40. Stanford, CA: CSLI Publications.

2008年

- 2008 由本陽子 「複合動詞における項実現 -- 統語的複合と語彙的複合の差異 --」 『レキシコンフォーラム』4
- 2008 Hiroto Hoshi "Functional Categories and Complex Predicates." 『レキシコンフォーラム』4
- 2008 中谷健太郎 「テクル・テイクの動詞共起制限の派生」 『レキシコンフォーラム』4
- 2008 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一戻る」の意味分析」 『言語文化論集』29 (2)、名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 2008 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一残す」の意味分析」 『言語文化論集』30(1): 47-60. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 2008 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一渋る」の意味分析」 『ことばの科学』21: 45-59. 名古屋大学言語文化研究会
- 2008 杉村 泰 「複合動詞「一切る」の意味について」 『言語文化研究叢書』7、名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 2008 野田大志 「複合動詞の構文的意味拡張に関する一考察」 『日本認知言語学会論文集』8、日本認知言語学会

- 2008 小久保崇明 「「仰せ出さる」小考—複合動詞「仰せ+動詞」+尊敬の助動詞「る(らる)」について」 『桜文論叢』70、日本大学法学部
- 2008 菊田千春 「複合動詞「Vかかる」「Vかける」の文法化—構文の成立とその拡張」 『同志社大学英語英文学研究』81/82
- 2008 村田 年 「文章と複合動詞—論述的な文章ジャンルを特徴づける新たな指標を探して」 『日本語と日本語教育』36、慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
- 2008 斉木美知世 「「君を咲き誇ろう」の意味解釈—複合動詞の他動性をめぐって」 『日本エドワード・サピア協会研究年報』22、日本エドワード・サピア協会
- 2008 陳 曦 「日本語学習者と母語話者における日本語複合動詞使用状況の比較—作文データベースを用いて」 『小出記念日本語教育研究会論文集』16、小出記念日本語教育研究会
- 2008 岡野幸夫 「『唐物語』の複合動詞語彙」 『国文学攷』201
- 2008 徳本文 「上代の複合動詞：前項と後項の意味関係から」 『立教大学日本文学』102
- 2008 Fukushima, Kazuhiko “On the Type-wise Productivity of Lexical V-V Compounds in Japanese: A Thematic Proto-role Approach.” *Gengo Kenkyu* 134: 119-140.
- 2008 韓京娥 (ハン=ギョンア) 「日本語の『～てあげる・くれる』と韓国語の『-아/어 주다 -a/e cwuta』の意味機能」 『日本語教育』136: 78-87
- 2008 金秀美 (キム=スミ) 「日本語と韓国語の複合動詞について—V1の格支配について—」 『日本語と朝鮮語の対照研究Ⅱ 東京大学21世紀COEプログラム「心とことば—進化認知科学的展開」研究報告書』79-89. 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻
- 2008 盧 [女主] 鉉 (ノ=チュヒョン) 「本動詞と補助動詞の授受表現の使用から見た言語行動の日韓対照—相手の所有物を借りる場面で—」 『日本語と朝鮮語の対照研究Ⅱ 東京大学21世紀COEプログラム「心とことば—進化認知科学的展開」研究報告書』91-108. 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻
- 2008 井本亮 「限界点を越える—「V+すぎる」の意味計算と解釈コスト」, 岩本遠億 (編著) 『事象アスペクト論』第5章 開拓社
- 2008 Nishiyama, Kunio “V-V Compounds” In: Shigeru Miyagawa and Mamoru Saito (eds.) *The Oxford Handbook of Japanese Linguistics*, 320-347. Oxford University Press.

2009年

- 2009 于 康 「複合動詞位移義与完成義的選択—以「Vあげる」為例—」 『語言学研究』第7輯、北京大学外国語学院外国語学及応用語言学研究所編、高等教育出版社
- 2009 Kageyama, Taro “Chapter 28 Isolate: Japanese”. In: Rochelle Lieber and Pavol Stekauer (eds.) *The Oxford Handbook of Compounding*, 512-526. Oxford University Press.
- 2009 Lieber, Rochelle “A Lexical Semantic Approach to Compounding” In: Rochelle Lieber and Pavol Stekauer (eds.) *The Oxford Handbook of Compounding*, 78-204. Oxford University Press.
- 2009 松本 曜 「複合動詞『～込む』『～去る』『～出す』と語彙的複合動詞のタイプ」 由本陽子他編『語彙の意味と文法』 pp.175-194 くろしお出版.

- 2009 野田 大志 「構文的多義ネットワークにおける並列型及び補文型複合動詞の位置づけ」 『日本認知言語学会論文集』第9 巻 pp.143-153
- 2009 岸本秀樹 「補文をとる動詞と形容詞: コントロールと上昇」, 影山太郎(編)『日英対照 形容詞・副詞の意味と構文』第5章. 大修館書店
- 2009 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一惜しむ」の意味分析」 『ことばの科学』22: 151-159. 名古屋大学言語文化研究会
- 2009 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一尽くす」の意味分析」 『言語文化論集』31(1): 83-95. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 2009 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一残る」の意味分析」 『言語文化論集』30(2): 171-180. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 2009 廖 秋紅 「日本語の統語的な複合動詞と中国語の動詞補語に関する一考察」 『語彙研究』7: 30-39. 語彙研究会
- 2009 朱 春日 「複合動詞の自・他対応について—派生に基づく対応を中心に—」 『世界の日本語教育 日本語教育論集』19: 89-106. 国際交流基金
- 2009 塚本秀樹 「日本語と朝鮮語における複合動詞再考—対照言語学からのアプローチ—」 油谷幸利先生還暦記念論文集刊行委員会(編) 『朝鮮半島のことばと社会—油谷幸利先生還暦記念論文集—』313-341. 明石書店
- 2009 金聖媛 (キム=ソンウォン)・原口庄輔 「日本語と韓国語の右側主要部の規則」 津留崎毅(編) 『レキシコン・ア-ラ-カルト』65-97. 開拓社
- 2009 Yumoto, Yoko “Modularity of Word Formation: Differences between Two Types of Japanese Compound Verbs” Hoshi, Hiroto (ed.) *The Dynamics of the Language Faculty*, 203-230. Kurosio.
- 2009 宮腰幸一 「「かけ」構文と並行事象構造」 『日本語文法』9(2): 36-52.

2010年

- 2010 青木博史 『語形成から見た日本語文法史』 ひつじ書房
- 2010 何志明 『現代日本語における複合動詞の組み合わせ : 日本語教育の観点から』 笠間書院
- 2010 栗林 裕 『チュルク語南西グループの構造と記述 —トルコ語の語形成と周辺言語の言語接触』 くろしお出版
- 2010 Bjarke Frellesvig, Stephen Horn, Kerry Russel, and Peter Sells “Verb Semantics and Argument Realization in Pre-modern Japanese: A Preliminary Study of Compound Verbs in Old Japanese.” *Gengo Kenkyu* 138: 25-65.
- 2010 新田哲夫 「石川県白峰方言の複合動詞アクセント」、上野善道監修『日本語研究の12章』431-428. 明治書院
- 2010 岳 莎莎・吉田 光演 「日本語の複合動詞とテ形動詞の比較—中国人日本語学習者の誤用を通して—」 『人間科学研究 広島大学大学院総合科学研究科紀要1』5: 57-68
- 2010 陳 曦 「第二言語としての二種類の複合動詞の習得—コーパスによる学習者の使用実態調査をもとに—」 『ことばの科学』23: 19-35. 名古屋大学言語文化研究会
- 2010 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一回す」の意味分析」 『言語文化論集』32(1): .33-49. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 2010 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一尽きる」の意味分析」 『言語文化論集』31(2): 49-60. 名古屋大学言語文化研究会

- 2010 陳 劫憚 「語彙的複合動詞の自他交替と語形成」 『日本語文法』10(1): 37-53
- 2010 廖 秋紅 「複合動詞の構成要素の意味的な組み合わせ」 『愛知学院大学大学院文学研究科文研会紀要』 21:
- 2010 白 鍾讚 「日本語の複合動詞と韓国語との対応関係」 『日語日文學研究 日本語學・日本語教育學篇』 72(1): 179-195. 韓國日語日文學會

2011年

- 2011 阿部 裕 「上代日本語の動詞連接「トリ-」について—複合動詞の存否を中心に」 『名古屋言語研究』 5: 1-14
- 2011 杉村 泰 「コーパスを利用した複合動詞「一回る」の意味分析」 『言語文化論集』 32(2): 17-32
- 2011 塚本秀樹 「韓国語との対照」 益岡隆志（編）『はじめて学ぶ日本語学—ことばの奥深さを知る15章—』 236-256. ミネルヴァ書房

2012年

- 2012 塚本秀樹 『形態論と統語論の相互作用—日本語と朝鮮語の対照言語学的研究』 ひつじ書房.
- 2012 Pavol Stekauer, Salvador Valera, and Livia Kortvelyessy (eds.) *Word-Formation in the World's Languages: A Typological Survey*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 2012 影山太郎 「語彙的な複合動詞と補助動詞」 『レキシコンフォーラム』 6. ひつじ書房
- 2012 Fukuda, Shin “Aspectual verbs as functional heads: Evidence from Japanese aspectual verbs.” *Natural Language & Linguistic Theory* 30.